



地域の方々や小学生との交流も行っている。

# 異国で学ぶ

## インドネシアの漁業実習生

母国のために技能を習得

旧中浦小学校の校舎で、インドネシアの青年18名が日本語や漁船漁業の基礎を学んでいます。彼らは外国人技能実習制度を活用して来町しており、2月末まで日本語を学習した後、各水産事業所に別れて洋上実習を行います。そこで学んだ知識や技術を母国に持ち帰り、産業の発展に役立てています。

### 本町での取組

水産業が盛んな愛南町では、平成20年から、本制度を活用して実習生の受け入れを行っています。愛南漁協が受け入れの窓口（監理団体）となり、町内の水産業者と連携して実施しています。

「いつも勇気のいること。」

彼らを尊敬している！

12月中旬に来町した実習生は、本格的な洋上実習に入る前に約2か月半、日本語の勉強を行います。以前は町内で日本語を教えられる環境がなく、他所で学んでいましたが、2年前から学習環境を整えました。

実習生に日本語を教えている成宮圭亮さん（城辺甲）は「遠い国から来るのはとても勇気のあること。あの年齢で日本に来る決断をした彼らを、私は尊敬しています」と話します。もともと音楽の先生をしていた経験を活かして、歌や楽器を用いて楽しく日本語を教えています。また、実習生たちが自らの息子と同年代のため、一層親近感を覚え、応援したいとも言います。



教科書を読み上げて  
日本語の勉強をする実習生



深まる交流 地域明るく

多くの外国人が地域にやって来て暮らすことに、当初は受け入れる側にも不安がありました。しかし、実習生が真面目に勉強や仕事をこなす姿を見て、理解が深まりました。



しめ縄づくりを教える  
岩上賢次郎さん（中浦）

尻貝地区で行政協力員を務める渡辺綱大さんは「彼らも不安な気持ちを持っていると思うので、地域としてもサポートしていきたい。それに笑顔が良いですね。前向きな姿勢や意欲が素晴らしいです。地域が明るくな

ります」と、地域にもたらす影響を話します。

実習生は積極的に行事に参加したり、地域の方々に元氣にあいさつをすることで交流を深め、今では地域に受け入れられています。

夢を追って

3月からは各水産業者と雇用関係のもとで本格的な洋上実習に移ります。実習生のリーダー役を務めるウオノさんは「この研修で学んだことを活かして、釣りで生計を立てている父と一緒に漁業がしたい。船も小さいので、いつか大きな船が造れたら」と夢を語りました。



目標のために日本語の学習に励むウオノさん



なーしくんと一緒に記念撮影。  
普段から「なーしがいっぱい愛南町」を歌って勉強している。